

先月末ようやく桜が満開を迎えましたが、夜は肌寒い北海道です。この度の連休を利用し、世界遺産である『知床』へ行ってまいりました。

今回は1泊2日の強行予定。女満別空港まで久しぶりのプロペラ機を利用し40分で到着。レンタカーにて一路網走市内へ。今が旬の毛ガニ定食を贅沢にも頂きました。水槽で選んだ毛ガニをお刺身&茹でにて頂きました(オホーツク産直市場かにや)。ついでに向かい側にあった現在の網走刑務所の入口を見学しました。現在は軽犯罪を犯した方が入所されているそうです。早々に斜里知床へと向かう予定が、同行者からネットで話題の『天に続く道』をリクエストされ、調べ向かいました。見る角度によってまさに天へと行けそうな錯覚を感じました。

翌日、今回のメインである知床クルージングの為、一路ウトロ港へと向かいました。いよいよ知床半島目指して出航。今回は高速船で40名前後のクルーザーでしたが、運良く船首10名のベストな席となり、満喫出来ました。しかし、タイト・ダウン装備でも寒いです。途中で滝、熊3頭を見ながらついに知床半島突端に到着。人が上陸出来ない唯一の岬です。この先20分も進めばロシア領域で捕されるそうで、Uターンとなりました。陸に上がり昼食後、知床峠へ向かいました。展望台からは国後島が見え、周りの景色はまるでスイスのような様子でした。

駆け足での紹介となりましたが、皆様必ず一度は訪れる価値がありますのでお勧め致します。

札幌営業所(所長:利川 光浩)

皆様いかがお過ごしでしょうか。

今回は名古屋市市中川区にある松重閘門(こうもん)を紹介いたします。

ここは市内を南北に流れる中川運河と、名古屋城から港へ流れる堀川との連絡を図るためにかつて造られた水門です。その2つの河川のつなぐために造られましたが、中川運河と堀川に水位差が約1mあるため、有名なパナマ運河と同じような閘門にて水位調節を行う仕組みとなったようです。1932年から運用が開始され、『東洋のパナマ運河』などと言われ名古屋名物の1つだったようです。

水上交通・輸送の主役を担ってきた松重閘門ですが、自動車輸送の発達とともに必要性が減少し、1968年に閉鎖となります。閘門にある尖塔も取り壊される話もあったようですが、保存を求める住民運動などもあり、残されることとなりました。現在では、名古屋市の有形文化財に指定されています。また日没後夜9時までは尖塔がライトアップされていますので、見に行かれてはいかがでしょうか。

名古屋営業所(所長:高橋 鉄夫)

KOYORAD

世界の拠点から
- From the base in the world -



平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて令和元年五月一日に東京営業所と仙台営業所が合併し、五月七日に東日本物流センターならびに東日本営業本部として無事に営業を開始する運びとなりました。

これもひとえにお客様、お得意先様ならびに関係各位からの日頃のご愛顧ならびにご協力のおかげとあらためて深謝申し上げます。

また、移転中に際しまして皆様にご不便とご迷惑をお掛けしましたこと心よりお詫び申し上げます。

これを機に従業員一同さらに専心努力いたし、ご期待にお応えする決意でございます。今後とも皆様のご支援ご指導を賜りますよう、伏してお願い申し上げます。また、お近くにお寄りの際には是非お立ち寄りいただけましたら幸いです。

皆さまのお越しを心よりお待ちしております。

東日本物流センター 東日本営業本部(センター長:木下 敦裕)

神戸の須磨浦公園に行ってきました。ここは昭和天皇御成婚記念に開園された公園で桜の名所としても知られています。ロープウェイで山頂まで行くと明石海峡大橋と桜のコラボが見られ、7分咲きの時期でしたが駐車場に入るのに40分、ロープウェイの待ち時間に1時間ほどかかり上に行くまで結構クタクタ。

しかし、ロープウェイから降り、展望台で東の方を見ると神戸の景色と桜の景観。非常に素晴らしく、疲れが吹っ飛びます。ここはロープウェイから更にその上はカーレーターという乗り物で山頂回転展望閣まで行きます。このカーレーター、名前がピンときませんでしたがクルマの意味のカーとエスカレーターの造語だそう。昭和41年から整備され現役で動いて、2人乗りの籠がベルトコンベアの上を動いている様子。乗り心地は非常に悪く、シャコタン、ハードサスの改造車に乗っている感覚で面白い。降りると目の前に丸い3階建ての建物回転展望閣。3階に登るとゆっくり回転する喫茶室があり。今回満席で座れませんでした。360度の景色を楽しめます。ゲームコーナーの2階には、一ヶ所窓が開いている所を発見。

そこからは桜と橋と一緒に写真の撮れるスポットになっていました。時間はかかりましたが行ってよかったです。

大阪営業所(所長:藤谷 弘行)

昨年の同じ時期、佐賀県呼子沖にある馬渡島(まだらじま)での釣行で、思い描いた釣果が得られなかった悔しい思い出があります。「今年こそは爆釣目指して!!」と、昨年渡った同メンバーとリベンジに行ってみようと思ってきました。

今回ご紹介したいのは『民宿一福』さんです。実はこの民宿、釣り人御用達の民宿です。そのおススメな内容は、1.釣りのポイント移動に必要な車の無料貸し出し。大量の荷物を抱えてのポイント探しがとても楽、身体の負担が少なく済みます。2.食事はその季節に近郊で獲れた魚介類のお刺身(今回は、あわび、うに、イカ、鯛でした)、煮つけ、焼き魚などとても一人では食べきれない量が食卓に並びます。3.冷え切った身体を温めてくれる中浴場があり、何回でも入浴できます。

上記すべてのサービス込みで¥7,000/人とかかなりリーズナブルです。また、この民宿の女将さんがとても親切な上、ほんわかした雰囲気でも幸せになります。釣りに行かなくても、十二分に離島旅行を楽しめる民宿で本当におススメです。

ちなみに、意気込んで望んだ釣果は・・・(泣)。来年にまたリベンジしたいと思います。

福岡営業所・沖繩配送センター(所長:江頭 慎司)

インドネシアの大統領選挙の最終結果の発表がありました。対立候補支持者たちの摩擦はますます激しくなっています。今までの大統領選挙に比べ、今回は激しい選挙でした。

選挙を行っているKPUメンバー(KPU:選挙管理委員会)の中から600人以上の死者が出て、更に4000人以上が入院中、未だに原因は不明です。政治家の言い分は疲労の蓄積が原因ではないかということです。ただお医者さんによると元々持病がない限り、疲労で死んでしまうことはないという結論です。原因を知るためにあるお医者さんは亡くなったKPUメンバーの死体検査を行い、体内から毒が検出された実態を明かしています。

一体インドネシアで何が起きているのか、最近みんな不安な気持ちで日常生活を過ごしています。更に選挙中に色んな不正行為が発覚し、その行為は特定候補者を勝たせ、他方の候補者を負けさせる傾向が多かったです。そのために今の選挙結果は公平なものではなく、特定候補者を勝たせるための選挙だとの見方がされています。Facebook、Whatsapp、Twitter、YouTubeなどで不正行為の情報が流れ、他方の支持者がますます怒りを燃やしています。

他方の支持者は最終結果を受け、不正行為を容認するつもりはなく大きなデモの計画があります。デモはジャカルタだけでなく、各地で起こる可能性が非常に高いです。

KJI(インドネシア)(工場長:S.Akhyar)

～市民のソウルフード～

南京の名物料理と言えば『鴨血粉絲』。さっぱりスープの中に春雨のような半透明の麺、さらに野菜や油揚げ、そして主役に『鴨血』と呼ばれる鴨の血を豆腐状に固めた具が入ります。先日知人の案内で南京を訪問した際に様々な地元料理を食する機会がありました。江蘇省の省都である南京は『六朝古都』、つまり中華民国をはじめ古くは宋、明など六つの王朝で首都として栄えた歴史色あふれる街です。

そんな南京での地元民の朝食の定番がこの『鴨血粉絲』です。さっそく近くの店で食べてみました。ベトナムのフォーにも似たさっぱりスープにチョコレート色の『鴨血』がたくさん入った鉄分たっぷりのスープ麺です。あっさりした味は朝食にもちょうどよく、私好みの味でした。街を歩くとあちこちにこの『鴨血粉絲』の看板を見かけ、まさに南京市民のソウルフード的存在です。

鴨血以外にも鴨料理が大変多く、「なぜ南京ではこれほどに鴨料理が多いのか？」と尋ねると明朝時代に皇帝(朱元璋)が鶏の朝の鳴き声を快く思わず南京中の鶏を殺すように命じたため鶏(チキン)の代わりに鴨料理が普及したのだとか。真偽のほどは定かではありませんが、中国には各都市に地元庶民フードにまつわる逸話があり、その由来を聞きながら味わうのも楽しいものです。

KHE(中国・蘇州)(総経理:山本 博史)

日本では桜の季節が終わり、ゴールデンウィークも楽しめたかと思えます。こちらカリフォルニアでもようやく雨の季節が終わり、近郊の山はポピーなどの綺麗な花が咲き乱れています。色は毎年異なる様ですが、今年とはくにオレンジ色の花が多く、山はオレンジ色に染められています。

今回は近郊のお花畑を紹介いたします。場所はサンディエゴ群(ロスから1時間半程度の場所)の北部にあるカールスバッドという町にあります。穏やかな丘陵地帯に60年以上も続いているお花畑の牧場です。古くからこの地域を代表するランドマークの一部になっています。この牧場(お花畑)では

アンティーク調のトラクターを利用し、お花畑を巡るワゴンライドが人気です。このワゴンライドではお花畑の歴史などのオーディオの解説もあり、庭のデザインや花の種類などを丁寧に説明してくれます。もちろん写真撮影などは自由にできますが、ドローンによる撮影は禁止という貼紙があります。5月の中旬くらいまで鑑賞でき、それを過ぎると全てのお花は全米各地のお花屋さんに出荷されるとの事です。

近くには大きなアウトレットや日本の名古屋にもできたレゴランドもありますので、この季節は多くの家族連れでにぎわいます。

KCS(アメリカ)(COO:板垣 仁志)

～美味しい食べ物＝行列?～

少なくともシンガポールでは必ずしもそうではありません。

週末に運動して過ごした後、私はマーケットにフードハントに行きます。毎週違うマーケットに行きますが、どこも混雑しています。10～20人以上並んでいる屋台をよく見かけます。しかし、長い行列ができてから美味しいはずだと誤解しないで下さい。安いからいい食べ物だという方もいます。

先週、チョンバルというマーケットに行きました。そして、そこにいつも長い行列ができていたバーベキューポークのつたヌードルを提供する屋台を知っていました。その日は10人しか並んでいなかったため、行列に並ぶことにしました。聞いて下さい、30分も並びました。一番人気のプレミアムバーベキューポークを注文しました。麺は問題ないのですが、お肉は噛むのが大変で良い印象ではありませんでした。このヌードルは6シンガポールドルとマーケットフードとしては高く、まったく良いものではありませんでした。なぜこんなに並ぶのだらうと思いました。

こんな経験をしましたが、見聞を広めるため常に新しいことを試すのは良いことです。

KIO(シンガポール)(E.Wong)

～スイス・ラウターブルンネン～

復活祭の週末に、友人家族から招待されスイスのラウターブルンネンと一緒に過ごしました。

スイスのとても小さな村ですが、この地域はとても美しいです。スイスの有名な町のひとつであるインターラーケンに近く、ラウターブルンネン渓谷と呼ばれる山の中にあります。アイガー、メンヒ、ユングフラウ、そしてラウターブルンネン・ブライトホルンと呼ばれる有名な山々を持つ地域です。最も高い山は標高4100mのユングフラウ。ここではスキーや登山などを楽しむことができます。またこの時期はたくさんの方がパラグライダーをします。

そして、人口500人、標高1650mの山の中にあるミューレンという小さな村も行きました。非常に小さい村ですが、家、建物、カフェ、レストランなどの施設は、代表的なスイススタイルです。この村には自動車がありません。そのためこの村に行くには、まずラウターブルンネンからシュテッヘルベルクに行き、そこからミューレン行きのケーブルカーで行かなくてはなりません。

またラウターブルンネンの渓谷には、70以上の滝があります。私たちはその中でも最も大きく魅力的なトリュンメルバッハの滝に行きました。私たちは4日間滞在し、何年にも渡ってつくられた山や滝などの自然を楽しみ、本当に魅了されました。

KIO(オランダ)(Jan van Mier)